郷土への扉
The gateway to local history

# 火山の恵み

霧島ジオパークのエリアが広がり、霧島市全域が認定エリアになりました。霧島市の歴史・文化財を語る上で、火山は切っても切り離すことはできません。今回は、霧島市の文化財と火山との関わりを紹介します。

## 火山に挟まれた場所

桜島・霧島山に挟まれた霧島市は、まさに火山に囲まれて人々が住まう場所で、錦江湾の湾奥部は世界最大級のカルデラ噴火によってできた地形です。

その噴火の際に噴出した火砕流で埋め尽くされてできたシラス台地から、縄文時代の定住集落跡を含む上野原遺跡が発掘されました。発掘の際、住居跡に古い噴火による火山灰が検出されたことで、日本最古級であることが判明。火山とともにあった上野原遺跡は、遺跡が国指定史跡、出土品が重要文化財になっています。

## 火山と信仰

火と煙を噴き上げる火山は、古来から人々を畏れさせ、信仰の対象ともされました。霧島神宮は霧島山信仰、鹿児島神宮は桜島信仰から始まる神社といわれています。国宝に指定された霧島神宮本殿は、露出した溶岩をそのまま礎石として利用し、斜面を流れた溶岩上面の傾斜を生かして建てられるなど、火山と密接な造りの社殿となっています。

水はけが良過ぎるシラスが広く分布する鹿児島は稲作に適しておらず、江戸時代は特に、霧島山や桜島の噴火による火山灰の影響で厳しい時代でした。そのため、稲がしっかり育つように、神頼みとして田の神像（田の神（かん）さあ）が各地に作られるようになりました。市内には至る所に、火山から生まれた信仰が息づいているのです。

## 火山がもたらした岩

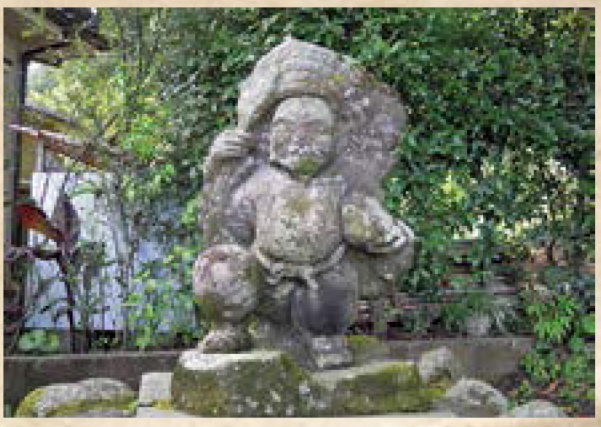
火山が噴火したときに出てくる噴出物が火砕流に運ばれて積み重なると、火砕流堆積物という地層になります。横川・牧園の天降川の中流域でも、それらを観察することができます。九州の5大カルデラのうちの、三つのカルデラ（加久藤・阿多・姶良）の噴火による火砕流堆積物があり、地質学的に大変貴重な地域として国の天然記念物に指定。火山噴出物そのものが文化財になっている、珍しい場所なのです。

火砕流堆積物が熱と圧力によって固まったものは溶結凝灰岩と呼ばれ、軟質で加工しやすいためにさまざまなものに使用されます。市内の国指定史跡・隼人塚と大隅国分寺跡の石塔類は、天降川流域で採石された溶結凝灰岩で造られたと考えられており、スコリアと呼ばれる黒い軽石を観察できます。

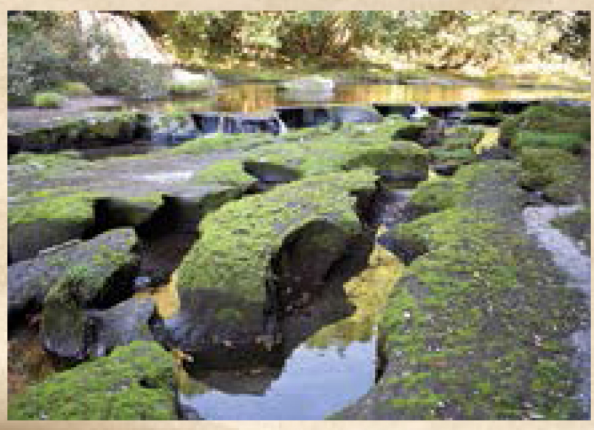
横川の赤水地区には、溶結凝灰岩の崖に仏像を浮き彫りにした赤水の岩堂磨崖仏があり、立体的に彫られた姿は見る者を感動させます。火山から出た火砕流堆積物は、それ自体が文化財になるだけでなく、加工されたものも文化財としての価値が認められています。

市内の文化財を見ると、火山を信仰しながらも巧みに利用し、共生してきた先人たちの姿がうかがえます。

（文責＝小水流）



県指定有形民俗文化財になっている宮内の田の神。鹿児島神宮の御神田にある田の神像



国指定天然記念物になっている、天降川流域の火砕流堆積物。水の力によってできた甌穴（おうけつ）（円形の穴）が広がる